

ローカル放送局の防災番組におけるタイトルの傾向に関する調査

株式会社静岡第一テレビ 増田謙
静岡大学防災総合センター 牛山素行

1. はじめに

内閣府の世論調査では、災害に関してどのような情報に接しているかという問いに対し「災害報道」を挙げた人が68.5%と最も高く、次いで「災害対策に関する番組」が53.7%（内閣府，2014）であり、防災啓発においてテレビは最も重要なメディアの一つといえる。発災後の報道については、テレビの特徴である視覚的情報がどのような役割を果たしているか（片山，孟，佐藤，2012）など分析が行われている一方で、レギュラー放送されている防災番組の分析は十分行われてこなかった。

本調査では静岡県内を放送エリアとする静岡第一テレビの防災ミニ番組「地震防災チェック」で各放送回に付けられているタイトルを分類することで放送内容の傾向を調査することとした。

2. 調査手法

「地震防災チェック」は防災に特化した番組として、想定される東海地震からの減災を目的に、2001年4月に放送を開始した。毎週土曜午前11時40分（2004年度までは11時25分）からの5分番組で、CMを除いた本編は2分45秒である。「地震に強い家を考える」や「阪神大震災の教訓」など回ごと異なるタイトルが付けられ番組冒頭にテロップで表示される。

調査対象は2001年4月の番組開始から2017年3月末までの16年度分、815回の放送のうちタイトルが確認できた788回とした。まず全タイトルを書き出し、タイトルに含まれているハザード関連の単語を抽出し分類したところ、表1の5種類のハザードに分けることができた。一方でハザード関連の単語が出現せず、タイトルからではハザードが判明しないものは「共通」とした。次に2016年・2015年度の2年度分のタイトルについてKJ法を実施し、性質別に5種類の大分類名と、10種類の小分類名を定義した（表2）。その上で、2001～2016年度の全番組のタイトルについて、1回当たり1種類の大分類名または小分類名を付与した。

表1 ハザード別分類項目

分類	出現単語
地震	地震、震度、マグニチュード、断層警戒宣言、倒壊、耐震、家具の固定 1.17、余震、ひずみ計、南海トラフ等
津波	津波、防潮堤、命山、高台移転 海拔、海、海辺、沿岸、港
気象	雨、氾濫、洪水、台風
原発	原発、放射性物質、原子力
火山	火山、噴火
共通	上記の単語が出現しないもの

表2 性質別分類項目

大分類	小分類	内容
訓練	訓練（一般）	市民主体の訓練
	訓練（機関）	機関・組織の訓練
講座	講座（大人）	セミナー、防災に関するゲーム、非常食講座
	講座（子ども）	子ども向けイベント、授業
対策	対策（ハード）	防潮堤、防災拠点、インフラ点検・修繕
	対策（ソフト）	防災グッズ、備え、家具固定・耐震協定、災害直後の要支援者
	対策（避難生活）	避難生活・避難所、口腔ケア、ペット
	対策（組織）	組織名、組織の活動
教訓・課題		過去災害、〇に学ぶ、～の課題
基礎知識		用語、メカニズム、想定、研究・調査 発災時の対応法

3. 調査結果

3.1. ハザード別分類

調査対象全体では「共通」が全体の56.7%を占め、タイトルだけでは取り上げられているハザードが判断できないものが多いことが明らかになった（図1）。共通を除いて集計を行なった結果、番組開始から2003年度までは「地震」が100%を占めた（図2）。2004年度から「津波」が出現し、東日本大震災が発生した翌年度の2011年度には58.9%と初めて「地震」を上回った。また2011年度には「原発」が初めて出現し、以降は毎年度1～3回取り上げられている。富士山が世界文化遺産登録された2013年度に「火山」が初めて出現し、御嶽山の噴火が発生した2014年度には12.5%、2015年度には20%と「火山」が比較的高い割合を占めた。さらに2015年度には平成27年9月関東・東北豪雨が発生した翌週の放送回で「気象」が11年ぶりに出現し、年度を通じて初めて5つのハザード全てが取り上げられた。

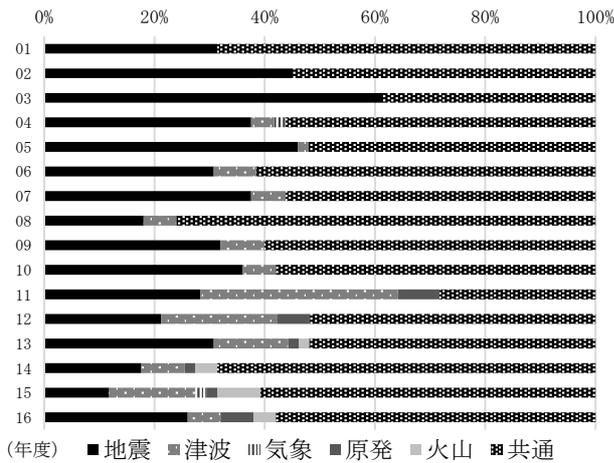


図1 ハザード別分類 (共通あり)

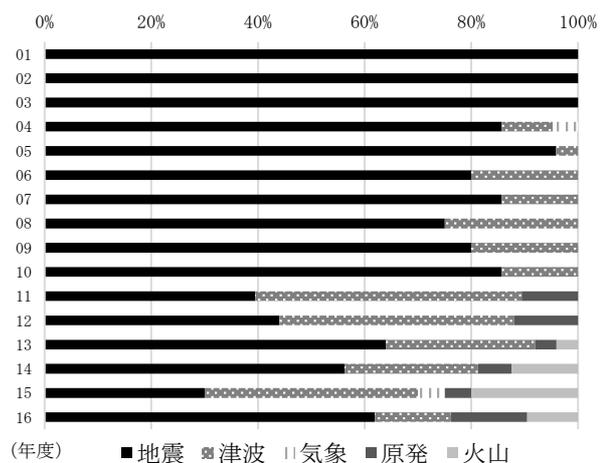


図2 ハザード別分類 (共通なし)

3.2.

性質別分類

図3の大分類による性質別分類を見ると番組開始から3年間は「対策」と「基礎知識」で80%~90%を占めている。翌年度以降は「対策」が、2015年度を除いて、30%以上を維持しているのに対し、「基礎知識」は漸減し近年は20%以下に留まっている。一方で「訓練」と「講座」の割合が高まり2016年度にはこの2分類で50%を占めている。図4の小分類では番組開始から3年間は全く取り上げていない分類が多くみられるが、近年はどの分類も満遍なく同程度の割合で取り上げている。

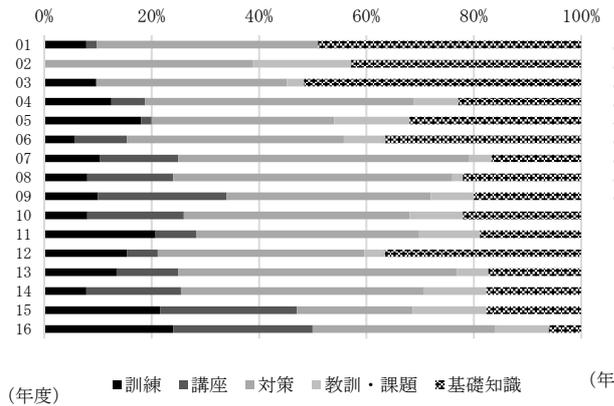


図3 性質別分類 (大分類)

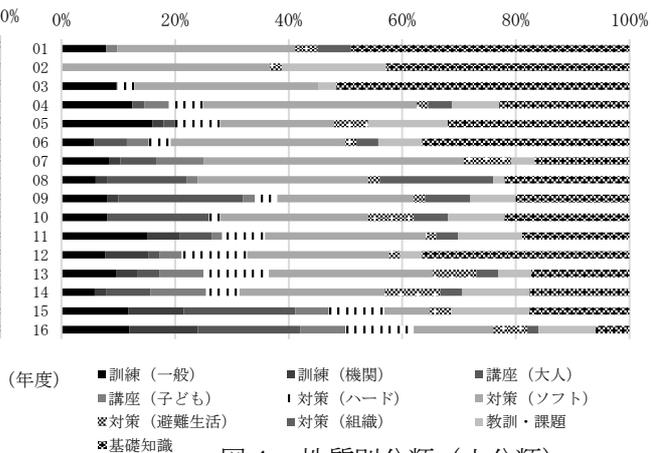


図4 性質別分類 (小分類)

4. 考察

番組開始当初はハザード別では「地震」、性質別では「対策」「基礎知識」が多く、地震のメカニズム解説や同テーマを数週にわたり放送するシリーズ化されたタイトルが見られ、開始当初の東海地震からの減災という目的に沿った内容が取り上げられていた。一方で近年は「訓練」や「講座」などイベント取材するケースが多く、日々のニュース番組の取材と兼ねているものが多いと考えられる。また東日本大震災や御嶽山噴火など発生した災害に応じた番組タイトルが決められていた。今後、番組映像を用いた内容分析を行い、より詳細な調査を行い番組制作に還元していきたい。

謝辞：調査にご協力いただいた静岡第一テレビ社員各位、静岡大学防災総合センター職員各位、牛山研究室関係各位にはKJ法にご協力いただいた上、多大なご指導・ご助言を頂き感謝する。

参考文献 内閣府：防災に関する世論調査，2014

<https://survey.gov-online.go.jp/h25/h25-bousai/2-1.html> 2017年11月18日参照

片山紀生ほか：視覚的情報の役割に着目したニュースショット分類による震災テレビ報道の分析，研究報告デジタルドキュメント (DD) 6, pp1-8, 2012